

博物館だより

第41号

長野市小島田町1414 ☎026(284)9011

日本最古の 恐竜化石



▲恐竜の足跡化石（写真提供 小谷村教育委員会）

9月8日から14日まで、北安曇郡小谷村^{つんざわ}土沢で恐竜の足跡化石の発掘調査が行われました。この化石は、3年前に当館職員が標本収集の際に発見したものです。発掘調査は小谷村教育委員会が中心になって編成された「小谷村恐竜化石学術調査団」によって行われ、恐竜が歩いたあと（行跡）^{こうせき}などが確認されました。足跡の形から、この足跡の持ち主は小型の肉食恐竜と考えられますが、詳しい種類はわかりません。現在のところ、この化石が国内で最も古い恐竜の化石です。（約2億年前のもの）

（文責 畠山幸司）

お知らせ

星の講演会（聴講無料・申込制）

とき：平成10年1月17日(土) 午後5時30分～7時

会場：博物館プラネタリウム

演題：「小惑星の衝突から地球をまもる」

講師：松島弘一先生（前 科学技術庁航空宇宙技術研究所制御部計測室長）
（現在 日本スペースガード協会運営委員 機関誌アステロイド編集長）

定員：90名(多数の場合抽選)

申込：平成10年1月10日(土)までに電話で博物館へ

「もうひとつのオリンピック写真展」

身体障害者
たちの挑戦

協力：長野パラリンピック冬季競技大会組織委員会

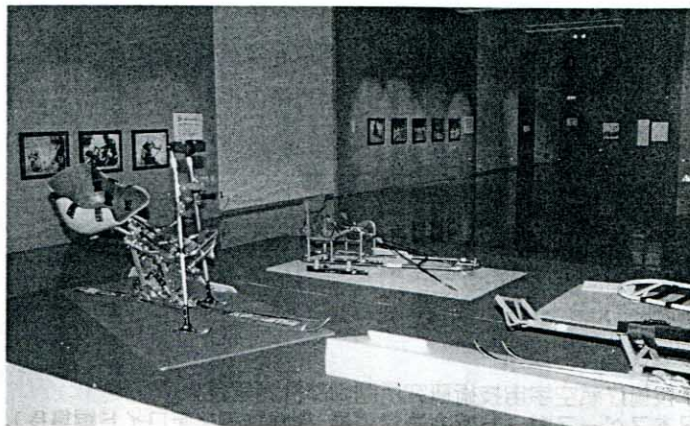
12月21日まで特別展示室にて開催

身体障害者の競技会は、1948年にイギリスロンドン近郊にあるストーク・マンデビル病院で開かれた両下肢マヒの人たちの競技会（スポーツを主にしたりハビリテーションを治療方針としていた）が始まりのようです。この大会がストーク・マンデビルゲームとして知れわたり、国際的な競技会として発展し、1960年のローマオリンピック大会からは、オリンピック後に同じ都市で開催するようになりました。そして1988年のソウル大会で「パラリンピック」という呼称が正式に使用されました。1976年に始まった冬季パラリンピックは、当初オリンピックとは別の都市で開催されていましたが、1992年の第5回のフランスアルペールビル大会からはオリンピック競技施設でパラリンピックが実施されています。

パラリンピックは、もともと下肢のマヒを意味するパラプレジア paraplegia とオリンピックを合成した造語でしたが、さまざまな障害がある人が一堂に会して競技を行っている今は、オリンピックと「^{ついで}である」と解釈され、「もうひとつのオリンピック」と言われるようになりました。

さて、3月5日～3月14日まで長野市内ほかでもうひとつのオリンピックである長野パラリンピックが開催されます。障害を乗り越え、自己の限界に挑戦する世界最高レベルの選手たちが繰り広げる競技は、多くの人々に生きる勇気と感動を与えるものと思われます。「障害はひとつの個性に過ぎない」という選手たちの前向きに生きる姿を見てみると、私たち自身が励まされます。

本展の身体障害者たちの競技に取り組む姿をとらえた写真は、身体障害者スポーツ写真をライフワークにされている写真家清水一^{かず}二氏（横浜市）が撮影されたものです。本展では、清水氏撮影の競技写真約30点のほか、競技会場・パラリンピックの歴史・競技器具なども紹介しています。また長野パラリンピック広報ビデオ・PRグッズ・パラリンピックカレンダー・長野パラリンピックテーマソングもあわせて公開しています。12月2日からは、金、銀、銅の入賞メダルなども公開しています。



冬季の障害者スポーツの多くは、選手育成が始まったばかりで、練習環境や指導体制、資金面でもまだ立ち遅れています。長野パラリンピックが日本の障害者スポーツの振興に寄与し、「ふれあう」ことの大切さを実感できるようにみんなで盛り上げたいと思います。

（文責 山口 明）

◀展示風景

オリンピックイヤー記念 無料開放

「昔の道具を使ってみよう」報告記

(平成9年11月8日・22日実施)

●博物館の役割とは… 市立博物館の役割は大きく分けて二つあります。一つは展示・教育活動であり、もう一つは民具や古文書などの収集・保存活動です。理想としては収集・保存活動で得た資料を調査し、その成果を展示活動で発表できれば良いのですが、実際はなかなかこの連携がうまく行かず、多くの収集資料が収蔵庫に眠っているのが現実です。今回の二日間に渡って行われた体験講座『昔の道具を使ってみよう』は、このような資料を少しでも紹介したいということから始まりました。

●体験講座『昔の道具を使ってみよう』… 講座では講師として現役の農家の岡沢喜久夫さんを迎え、初日は館内資料の千歯扱きや搥臼などを実際に使って稲の脱穀から精米までを行いました。参加人数は少なく5人でしたが、千歯扱きに悪戦苦闘する子供たちを見ていた通りがかりの子供たちも加わったり、また唐箕や搥臼での作業を見て、昔を懐かしがるおばあさんや、子供と一緒に昔の道具の仕組みに感心するお父さんなどで、盛況のうちに終わることができました。二日目は初日に玄米までにしたお米を精米して食べ、脱穀で出た藁を使って縄ないと草履づくりをしました。時間の関係で草履を作るところまではいきませんでしたが、講師の岡沢さんに教えられて皆真剣に縄ないを行っていました。

●再び博物館の役割とは… 千歯扱きや唐箕がそれまでの扱き箸や箕を発展させたものだということや、これらがいつごろ現れたのか、そして千歯扱きや唐箕がどのような役割をするかということなどはおそらく教科書で習って頭ではわかっていることだろうと思います。しかし実際に道具を使ってみてどのくらいの力があるのか、どれくらい使いやすいのか、使いにくいのかが初めてわかり、そういった実体験をすることで、より理解が深まるのではないかと思います。

今、学校では米づくりの体験学習を実施しているところが多くあります。しかし学校サイドでは田植えから収穫まではするものの、脱穀・調整は農協などに任せてしまう所が多いようです。博物館には実際に使われていた民俗資料が数多く収められていますが、これら資料を利用することで学校でできない部分を補うことが可能です。

博物館は今までの資料の収集、展示の場に加え実物資料を駆使した体験学習の場としての役割もこれからは重要になってくると思います。このような認識のもとに博物館では来年度も民俗資料を使った体験学習を行うとともに、民俗資料の目録を利用者にできるだけ分かり易い形で作成する予定です。将来は目録を基に学校とも連係して資料をいかして行くことができればとも考えています。今後の博物館の活動にご期待ください。

(文責 細井雄次郎)



▲搥臼を使っての粳摺り作業

(1月22日～3月29日) 冬季オリンピック・パラリンピック開催を記念し、市立博物館と茶臼山自然史館を無料開放します。

長野盆地には、古墳群・条里型地割・城下町・門前町など遠い過去からつくりあげられたさまざまな時代の景観が静かに息づいています。そうした景観の中で、長野盆地南部の千曲川沿いに見られる水田の広がり、まわりの山々と溶け合って、私たちにっては見なれた風景となっています。

水田は生産経済に移行した弥生時代以降にみられる生産の場です。1988年以降の長野自動車道及び上信越自動車道の建設に伴う発掘調査により、現水田の姿を失うのと引き換えに、なんとも皮肉なことに、古代の水田が発見されました。

長野盆地南部は、千曲川によって形成された自然堤防や後背湿地が発達し、古代からの生活の舞台になっています。現在も水田が営まれている旧流路であった後背湿地に遺された石川条里遺跡や川田条里遺跡では、現水田面の下より、弥生から江戸までの各時代の水田が何枚にも重なって確認されています。これらの各水田は、何代にもわたり人々が土に刻み続けてきた歴史そのものであり、各時代の歴史的景観の積み重なりを示すものです。自然堤防上にムラを作り、後背湿地に水田を営むという風景は、現代の景観にもつながる古代の原風景ということができます。

しかし、こうした見なれた水田風景も減反や後継者難、工業化の波などに押されて埋め立てられ、徐々に姿を消しつつあります。

画一的な都市化が進む中で、あらためて身の回りの農村をながめると、このような田園風景が新鮮で美しい歴史的な景観となって認識されてきます。ごく当たり前であったながめが、私たちが生きていく上で見過ごすことができない多様な価値を持つ景観となつてとらえられてくるのです。

信州は、豊かさとか住みやすさの指標では常に全国で上位となっています。他県と相対的に考えた場合に、心のよりどころとしての自然景観や歴史的景観が遺存し、生活の中に息づいているからだと思われます。

現在、冬季オリンピック開催を間近に控え、関連施設が長野盆地南部の水田や果樹園の中に建設

されています。巨大な施設が他を圧倒し、景観を激変させています。また、高速交通網の整備や新幹線の開通などにより、農村を取り巻く今日の社会情勢は急激に変化しています。

このような激変にさらされている今こそ、古いものと新しいものの存在価値を考えていかなければならないでしょう。

千曲川によって形成された原風景は、私たちに歴史的な景観の意味について今まさに問いかけています。

(文責 山口 明)



▲古代の原風景をみる

(常設展示弥生時代「収穫の秋」ジオラマより)

飯田の練り祭り
見学旅行 募集!!

とき 3月29日(日) 午前9時～午後8時

参加費 3,000円 定員 25名 詳しくは博物館まで